

目標達成計画

作成日：平成 22年 3月 4日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	60	戸外の行きたいところに出かけていますか？の問いに私たちは利用者が1番行きたい所は住みなれた家ととらえる。定期的に外出・外泊をされている方もいるが、1度も帰られていない方もいる。家族と共に過ごしていただく時間をつくれるような支援をしていない。	全利用者様に、住み慣れた家、もしくはなじみの場所で家族と共に過ごす機会を持っていただく。	本人や家族の意向を良く聞き、実現できそうな場面を創造し、日程、場所など共に企画し、それに向けての準備等を家族と職員が協力して行い、当日も、出来る限りの支援をする。この取り組みにより、共に本人を支える関係を作ることも出来る。	12ヶ月
2	59	安心安全で事故なく穏やかに1日が終わるようにとの職員の思いから、関わりを必要最小限にし、活気ある生活とはかけ離れてきてしまっているように思われる。身体介護に追われ、精神的なゆとりがなくなってきたようにも思われる。	笑顔を増やす。生き生きとした表情や姿が見られる時間を増やす。	声かけを増やしたり、ゆったりと一緒に過ごす時間を増やす事で、思いや願い暮らしの意向をよりいっそう引き出し、また、職員が教えていただけの事を見つける中で、暮らしを共にするもの同士の関係を構築したり、意向に沿った暮らしを支えたりする中で、笑顔が増え、生き生きとした様子を増やす事が出来る。	6ヶ月
3	34	急変・事故発生時・災害時に対応する、一部の職員の研修や、数回の避難訓練しか行っておらず、日々、不安を抱えながら業務に当たっている職員がいる。全職員が安心して、仕事ができるように環境を整えたい。	すべての職員が、急変・事故発生時・災害時に適切な対応が出来る様、知識や実践力を身につける。	マニュアルの見直しをする。研修、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行う。昼夜を問わず利用者が避難できる方法を、全職員が身につけられるような訓練を行う。	12ヶ月
4					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。